

【参考資料3】地域連携教員活動状況調査 問10 記述内容一覧

ここは「自由記述」であるため、回答者からの記述内容をそのままの表現で一覧にして記載した。

■小学校 教頭

- 小学校における地域連携にかかわる活動は、学習内容と密接にかかわっているため、学習を進める学年の担当者が連絡調整しなければならない。したがって地域連携教員となっても、具体的な動きは出来ないのが現状である。一方、地域の行事とのかかわりについては、学校の窓口は教頭になっているため、連携はしやすいという利点はある。
- 社会教育主事の資格に関わらず、学校の状況に応じた教員が担当できるようにしてほしい。
- 副校長として行ってきた（行っている）業務との違いが感じられないのは、地域連携教員としてやらなければならないことを、まだ、きちんと理解していないのかもしれないと反省している。
- 今後ともがんばっていきたいと思います。
- 地域連携教員が副校長ではなく、社教主事資格者に割り当てて活躍してもらいたいところですが、本校の教職員数では、一人一人の校務分掌が多く、なかなか割り当てられない状況です。
- 年間計画を作成したので、今後活用を図りながら、更に充実させていきたい。
- 本校は、地域コーディネーターが積極的に活動し、地域とのパイプ役になってくれている成功例と言える。教員は異動があり、引き継ぎを行うとはいえ、前年度のことが十分に生かされるとは限らない。今後もコーディネーターが活躍してくれることを学校は望みたい。そのためにも人材を確保し、新しいコーディネーター育てていく必要があると思う。
- 学校の窓口として地域の方々とのつながりが深まり、児童の教育活動の安定化につながっているとは言え、勤務時間外の活動や地域人材の方の都合優先等の負担を考えると、どの教職員にも担当できる職務とは考えられません。しかし、活動の継続性を認め、年度ごとに新たな活動を取り入れることがないように取り組むことが可能ならば、教職員も地域人材の方々も気負いなく臨めると思います。
- 本校では、長いボランティア活動の中で、コーディネーターが地域連携教員の役割も担ってきたようで、地域連携教員の連絡調整の役割が必要ないくらいになっている。今後は、今現在行われている活動を、全体計画や年間活動として位置づけていくことに努力したいと思う。
- 地域のコーディネーターを任命しているわけではありませんが、地域に関する情報は、PTA 役員や学校評議員、自治会長などから情報を得ています。
- 社会教育主事の有資格者がいなかったり、担任だったりする場合は、どちらにしても副校長が対応するしかないことを考えると、これまでとあまり変わらないと感じた。また、今年度地域連携推進計画を作ったりボランティアを整備したり、とても忙しかったが、「地域連携教員」と言われたからこそ「やらねば」という気持ちになった部分も多い。
- 地域連携教員という肩書は付いたが、教頭として今までやってきたこと、また、現在やっていることは変わらない。社教主事の資格を持っていても、「地域連携教員」は学級担任には大変な仕事である。また、窓口は教頭＝地域連携教員と一本化のほうが良いと思われる。
- 地域連携教員研修に参加して、市町村によって、コーディネーターについての行政の関わり方が異なっていることを知りました。コーディネーターの任命や謝金等、学校任せにするのではなく、行政が積極的に支援してくれるとありがたいです。
- ある程度時間に自由がきかないと、地域連携教員の仕事は難しいと思いました。
- 一般の職員に地域連携教員をまかせた場合、地域との顔つなぎや会議・地域行事への参加等において物理的に無理がある。教頭との連携において業務は成立すると考える。多忙感満載の学校において、大規模校ならまだしも小規模校においては校務分掌割り当て数も多くなるため、教頭の兼務も仕方がないところかと思う。
- 自分の実力不足で、地域連携の目的を教職員に理解させるのが難しい。説明用の資料があったらいただきたい。
- 新たな地域人材をいかに見つけるかが課題である。
- ボランティアの協力は教育活動にとって大変有効である。本校の場合は、教員数が少なく、一人の職員が校務分掌を多く受け持っているため、無担の教頭が係として対応している。実際には渉外的な内容が多く、相手に合わせての交渉や時間の連絡調整など、無担であっても多忙な中での運営は厳しいと感じている。
- 学校と地域が連携した教育活動は、大変意義があると思う。教職員は、長く同一校に勤務することは出来ないことが多いので地域のコーディネーターが必要になってくる。
- 外部の研修会などで、事例を聞かせていただき、参考になっています。

- 地域に地域連携教員という名称が浸透しつつあり、地域の情報収集や外部団体との連絡調整等がスムーズになることがあった。名称については、さらに啓発していただきたい。
- 現在、副校長の立場で地域連携教員を行っているが、仕事の内容としては今まで行ってきた内容とほぼ同じであるので来年度は学校の中心になる担任を地域連携教員に充てそれを支援する立場で進めていきたいと考えている。また、地域連携関係の校務分掌も複数にし、主任が異動しても地域との連携が切れないような組織にしていきたいと考えている。
- 現職教育の時間に地域連携について取り上げることにより、全教員で自校の地域連携について理解したり見直したりすることができた。また、地域のコミュニティの一つの核としての学校のあり方についても考えさせられた。
- 小規模校ならではの特色ある教育活動を推進するにあたって、地域の方の協力は不可欠なので、いろいろと連携を図りながら実施できたことはとてもよかったと思う。
- 今年度は夏休みの作品整理や持久走大会の監視等を、数人の地域の方の協力を得て実施できた。
- 4月に赴任したばかりの学校で、地域のことが分からない状態でのスタートであったので、戸惑うことも多かったが、研修等を通して地域連携教員の仕事を学ぶにつれ、少しずつやりがいも感じられるようになってきた。明るく前向きに地域との信頼関係を築いていこうと思う。
- 今後、効果的な学校教育のためには地域との連携は不可欠であると感じている。地域コーディネーターを配置していただき、どんどん地域の人材を活用していきたい。
- 「地域」といっても、ボランティア等で協力してくださる方は、高齢者が多い。親世代とうまく連携できる方法を模索していく必要があると思う。
- 地域連携教員としてのあり方をもっと研究し、自分の資質を向上させていきたいと思います。
- 地域連携教員を教頭が兼務することで、大変な点もあるが、特に小規模校の場合は、自分が総合調整しやすいというよさを感じることもあった。
- 新たに教育活動に組み込む場合は、学校が必要としている内容と地域の人材等が提供したい内容との違いがないか事前の打ち合わせを十分に行う必要がある。また、学校の教育活動とのバランスを考慮して導入しないといけない。そして、内容・時期・ボランティアの方の意図等を十分に考え、慎重に対応しないといけない。本校では、基本的な連絡調整は実施する学年の主任が行うかたちできているため当面、実施した活動の反省をもとに次年度の計画に生かしていく仕事と新たな要望に答えられるように情報の収集活動に重点をおいて取り組みたい。
- 学校教育において地域連携の重要性は増してきていると感じており実践を積み重ねています。しかし、「地域連携教員」の職の指定によって従来以上に課題の解決がなされていくとは思えないように感じます。また、指定によって業務が明確化されましたが一教員が担いきれるものではないように思います。辛口な感想で申し訳ありません。
- コーディネーターが3人もいるが、なかなか忙しい方々でかつ何をしたいか分からない面もあるので、結局自分でやることになる。多くの研修の機会をいただいているが、行こうという声が上がらない。
- 町内一小学校ということで、元々地域と一体の学校で授業支援や諸行事等での協力体制が確立されている。近年の児童数減少により、平成28年度をもって閉校となり近くの小学校に統合となるが、今後も、地域の人材を活用した教育活動ができるよう地域連携教員として取り組んでいきたい。
- 地域連携教員が配置されたことに、新たな取り組みを行う視点でなく、既存の行事や教育活動等を地域連携の視点から整理して取り組むこと（手法を変える等）が大切である。また、準備等の割に効果が小さい等負担が大きく継続できない取り組みは、思い切って止める等の判断が必要である。
- 地域連携教員制度が実施される以前から地域との関わりが深い本地域では、協力者（団体）が既にできあがっており、従来の連携を更に深めつつ、学校教育に生かしていきたいと考える。
- 教育内容の充実に関する連携はできてきていると思います。今後は、学校課題解決に関わる専門機関などとの連携をより図る必要を感じています。
- 地域連携教員が突然設置された「理由」は理解できるが、現実問題として一部の教員（教諭等）には非常に大きな負担となっている。また、研修会等に参加しても理論が先行し、主催者によっては多少無理をしているように感じられる。職務上のメリットがあれば、モチベーションも多少は高まるとも思われる。
- 本校では、「地域連携教員」設置以前から、地域との連携により学習を進めている。年間指導計画の中に位置付けられており、改めて研修等はありません。
- 各種の行事においては、連携教員ではない各担当者が進めていることが多い。
- 地域連携教員の仕事を、教頭の仕事の一部として行っているのが現状であり、非常に多忙感を感じる。各学校に、社会教育主事有資格者を地域連携教員として1名は配置するようにしてほしい。
- 地域連携教員として学校と地域がさらに一つになっていけるようにさらに努力していく必要があると感じている。

- コーディネーターとの連携や地域の人材との連携ができるようになり、行事や学習等で地域連携は深められたことは成果と言える。しかし、地域の高齢化やコーディネーターの変更など今後の課題もあり、活動が難しくなる事が予想される。その点をこれから行政等がバックアップしてくれると良い。
- 地域連携教員の職を担う加配教員を希望します。
- 業務は多忙である。小規模校のため、職員数が少ない上に、社会教育主事が不在である。担任をもって、業務に当たるのは難しいのではないか。
- 本校は、元々地域とのつながりが深い小規模校で、地域連携なくしては行事等が成り立たない部分がある。学校ばかりでなく地域にとっても win-win の関係になるよう、新たな連携の在り方を模索していきたい。
- 地域連携教員は、担任を持たず自由に動ける教員が望ましいと思う。教頭が兼ねてしまうより一般教員に理解してもらい、動いてもらった方が本当の意味での地域連携ができると思う。
- 教頭と地域連携教員を兼ねているので、仕事を進めやすい。
- 地域連携教員の必要性は以前から考えていたが、配置にあたり、担任レベルの連携教員の位置づけなら、教育課程上の授業時間数を削減して、連携に専念できる時間を設定する必要性を感じる。また、連携の形は各学校様々であるが、学校長の考えでかなり各校の進捗状況に温度差が出ると思う。連携教員の研修会を市レベルで開催することや連携の標準化を図る上では、校長会等での研修も必須ではないか。
- まだ 1 年目で、昨年度計画されたものをただこなしているだけになっているので、計画を見直し、学校・地域どちらからも活動しやすく、より充実したものにしていきたい。
- 日常的に地域連携教員が職員室にすることが多いので、地域の方、コーディネーターの方との連絡調整や協力はしやすかったと思う。しかし、担任や教務主任が地域連携教員になると、連絡調整を行う時間の確保をするだけでも難しいと思われる。
- 学校組織を挙げての地域教育の核となる学校作りを推進するためには、教頭、教務主任が地域連携教員になっていたのでは、多忙な校務を掛け持つことになり十分な時間が確保できない。また、学級担任等一般教諭が受け持つのも多忙感を募らせることになり十分な活動は期待できない。地域連携教員の加配をお願いしたい。
- 研修の参加や報告書の作成など、実務が増えました。このアンケートについても同様です。地域連携教員については、市教委からも、アンケート実施の依頼がありましたので、内容も重なる部分が多くあります。アンケートのためのアンケートではなく、調査結果が生かされ、教育行政に反映されることを望みます。
- できれば様々な取組を計画して児童の学びに役立てたいと考えていますが、地域連携に関する業務に携わる時間が取れないことが悩みです。
- これからの子どもの教育は、学校だけでなく地域で社会で行っていくものであることを再認識した。学校が力強い協力者を得て一緒に児童生徒の教育に当たれることは、大変ありがたい。
- 学校における問題点や困っていることについて、地域と共有し、共に解決していこうとする関係づくりが大切であると思う。
- コーディネーター（地域の窓口なる人）をお願いするに当たり、ある程度の財政的な手当があると良いのでは。
- 地域連携教員となり、学校と地域とを結びつけることの大切さを学びました。
- この事業が始まる前までも、教頭や教務主任が中心となって同様な連携活動は行っていたと思う。学校規模によっては、いろいろな分掌業務の他に地域連携も担当なんて学校があるはずで、担任レベルの先生に任せるのはすごく負担ではないかと感じる。全校に社会教育主事の資格をもっている職員がいるわけではない現状はどうなのか。また、資格があるからやれるというものでもないように思う。
- 本地区は、コーディネーターの方が精力的に活動してくださっているとともに、地域の組織が確立されており学校との連携・協力体制が整っているので大変感謝している。
- 地域連携によって現在の学校を「こう変えていこう」というビジョンや理想の姿がまだイメージできていない点を反省しています。
- コーディネーターがいない地域という地域との実践力の違いは大きい。社会教育主事等の地域連携教員の職務に精通及び専任出来る環境がないと、十分な活動の結びつくことが難しい。
- 多様な体験や人との関わりの中で、学習意欲や学力、社会性の向上等、子どもたちの生涯にわたって生きる力が育成されている。
- 教職員も「地域の一員として、地域保護者とともに児童を育てていく」という意識を高めていくことが必要と思われる。
- 地域連携教員になったが、土日の活動に参加することが数多くある。しかし教員特殊業務手当の対象になっていない。そのような制度の確立が望まれる。また、地域連携教員になって他の校務が減るわけではなく、今までの校務

- に地域連携教員の仕事がふえるだけの教員が多くなるように思う。校務分掌上、教頭がよいのか、担任は避けるべきか、生涯学習担当が兼ねるのかなど、校務分掌上の配慮はどうするべきか課題が残る。
- 教頭がやるのではなく、これから学校の核となっていく教員に地域連携教員をお願いしたいが、小学校は担任を持っており、自分の学年がどうしても中心となってしまうので難しい。
- 地域コーディネーターとのかかわりが強くなることで、学校におけるいろいろな活動に積極的に支援をしてもらえることが嬉しい。地域協議会の方々と連携も深まり、学校支援に協力してもらえていることが嬉しい。
- 本校は、以前より地域との連携が密で、地域の人材を豊富に活用した取り組みが行われている。地域連携教員がいなくても、教頭を窓口にもこのような活動は続くと思われる。ただし、教職員が地域の行事に進んで参加することも大切で、地域と学校が持ちつ持たれつの関係であることが大切だと実感している。
- 学校がこれまでに取り組んできた学社連携、外部人材活用等で活用・連携してきた取組を大切にしながら、よりよいものにしていくために、連携教員が中心になって継続・改善していくよう取り組んでいるところである。地域側のコーディネーターの組織作りに苦慮しているところである。
- 本校は全児童 20 数名の小規模校であり、地域連携教員は教頭が兼ねていますが、担任をもっている教員に任せるのは難しいと思いました。
- 学校の適正規模・適正配置等の動きが今後必要になり、小中一貫教育等多様な地域の事情が発生すると思いますので、いろいろな地域の様子が知りたいと思います。
- 研修会で、地域連携の先進校や先進地区の事例を見聞きし、まだまだ本地区は未開であると感じている。少しずつ切り開いていかなければならないと痛感している。
- 本校は近隣の学校と統合し 2 年目である。農村部に位置し、統合前は各校とも昔ながらの「おらが村の学校」という考えが強く、何事にも協力的であった。しかし、統合により保護者の人数が増えたことにより学校任せの保護者も出てきた。各種研修会のお知らせをしても出席者は非常に少ない。地域にしても「自分たちの学校ではない」と話す人もいる。今一度地域の方々に「おらが村の学校」と思ってもらえるような働きかけはどのようなものがありどうしていったらいいのかと悩んでいる。学校だけでなく行政の力が絶対必要であると感じている。
- 本校の組織がもっと大きければ、適切な人材を地域連携教員にすることができる。しかし、組織が小さいため教頭が担当することになった。教職員が多忙すぎるため、地域連携教員としては十分に機能しているとはいえない。
- 大変重要な仕事であるが、教頭や、担任教諭の兼任では、十分な職務遂行は難しい。
- これから地域との連携をさらに進め、地域との協働を行うことが、学校教育にとって、とても重要なこととなる。そのためには、地域（自治会、民生委員、公民館など）と学校が、学校の課題等について話し合う場を設置し、実際に行うことが必要である。
- やむを得ないことだが、教頭が兼務していれば渉外的な部分はスムーズにできるが、本来の業務をこなすだけでも大変な時間と労力を要する。できれば教頭でない別の教員（社教）がやるとよい。（現実には無理だが）地域連携教員に参加を求められる研修会も少なくないので、本校のように職員が 12、3 名しかいない学校では出たくても出られない現実もある。
- 教頭という立場上、外部の方々と接する機会も多く、学校と地域との橋渡しはしやすい。その反面、自分が動いてしまうことで、コミュニティ部や学年職員の関わり、当事者意識が薄くなってしまいう場面もみられた。組織を十分に機能させながらの連携活動推進にはまだまだ勉強が必要だと感じる。（本来、地域連携教員は教頭職でない方が望ましいと伺っているが、その場合は無担であることが望ましく、また、社教主事の有資格者がふさわしいとなると、「地域連携教員」としての教員を加配していただくことが必要になってくるのではないかと思います。）
- 管理職がこの役割をこなすのは、正直辛い。しかし、学級担任に担当させるのは、もっと過酷であると感じている。

■小学校 主幹教諭・教務主任

- 教務主任として、学年全体を見渡したり、時間的なゆとりをもって地域やコーディネーターと連絡を取り合ったりすることができるが、学級を担当している者が地域連携教員となった時に、負担が増えないかと感じることがある。
- 地域連携の教育にチームとして取り組んでいく体制づくりが必須だと思うとともに管理職ではない地域密着型の息の長い（長く在籍できる）教員がチームを引き継いでいく体制により持続性が出てくる。
- 学級担任が地域連携教員を務めるのは、打合せや情報交換の時間等を考えると厳しい。社会教育主事の有資格者や教頭・教務主任以外の学級担任ではない者が担当できれば一番良いのだが、規模が小さい学校では難しい。
- 児童に生きる力をつけるために地域の力が必要ならば、積極的に活動を進めていきたいと思っています。それが地域の人々の活躍の場になれば、なおよいことだと考えています。
- 地域の素材をこれからも研究し、コーディネーターと意見の交流を図りながら、お互いに楽しく活動していけたらすばらしいと思う。

- 地域連携教員となって、以前より地域資源の活用の意識が高まった。
- 地域連携教員になって、地域連携の重要さを肌で感じる事ができた。コーディネーターがいない本地区で、より効果的な連携や情報の収集を図っていきたい。
- さくら市では、すでに地域連携を推進するための体制が整っており、これまで係名を「地域連携教員」と変えるだけでよかった。また、コーディネーターは3年以上の経験があり、教務主任が地域連携教員になるなど、本校は大変恵まれた環境で実践できている。しかし、体制が整えられていない市町や学校もたくさんあると聞く。全公立学校にコーディネーターを置けるような体制作りを県としても進めてほしい。地域連携教員の横のつながりをもてるような、ネット上での場があれば紹介してほしい。無ければ、県で用意していただきたい。
- もともと地域と連携した活動は、たくさん行われていました。地域連携教員としては、取組のPDCAサイクルを整え、特に記録と評価を大切に、それらの活動をさらに効率よく、効果的に推進できるように機能したいです。
- 地域連携教員の研修で、情報交換ができる場があり大変勉強になりました。
- 地域と連携し、地域の教育力を生かした活動は、特色ある教育活動や学校づくりに今後ますます欠かせないものとなると思う。
- 新任ということで、年度当初は手探りの状態からスタートしたが、業務を進めていくに従って、地域の方とのつながりが徐々に深まっていくのを感じ、徐々に業務が円滑に進められるようになりつつある。しかしながら、コーディネーターの方がいれば、さらに効果的に連携ができるのではないかなと思う。
- 家庭や地域の教育力を高める取り組みを今以上に推進していく必要がある。「地域の子どもをみんなで育てよう運動」などの取組を小学校区単位で毎年開催できたらうれしい。
- この制度は、校務分掌に地域連携教員を位置づけたものですが、中心となる地域連携教員にある程度の時間がないと負担感を大きく感じます。結果的に意欲的に活動できず活動が停滞しがちになります。現実的には、難しいことはわかりますが、教員を増やすまたは、各市町村教委に社会教育主事をさらに配置するなどして負担感を感じないようにすることが大切だと思います。
- 地域の方々と話す機会が今までより増えたことは、大変よかった。自分自身は教務主任という立場であり、時間的に余裕があったのでできたことも多い。また、本校勤務9年目で地域のこともある程度わかっていたことも大きい。学級担任をしながらの地域連携教員は、本校では難しいと感じている。
- 今後も地域連携活動を組織的・効率的・効果的に進めていきたい。
- 昨年度は、学級担任として地域連携教員の役割を担っていたが、なかなか思うように仕事を進めることができなかった。今年度は、教務主任としての関わりだったが、昨年度に比べるとスムーズに進めることができたように感じる。
- 地域の実態が違うのとそれぞれの学校での地域連携教員のスタイルがあると思うので、その学校にあったスタイルで実施できればよいと思う。教員の立場でも違いがあるので、自分らしさを出して、一人で責任を感じず、無理せずチーム（仲間）で学校と地域をつないでいけばよいと考えている。
- 地域連携に関する諸計画を整理統合しているところなので、業務運営を効率的に進められていない。
- 地域と学校の協力体制はよくとれている地域で、交流活動も充実している。教育効果を考えて、随時検討改善を加えるようにしている。
- 連携の大切さ、難しさを感じながらでしたが、地域の方々とふれあう楽しい経験をさせていただき地域のことについて知ったりするいい機会となりました。
- 地域連携は、現代の子どもたちに「生きる力」をつけていくために、大変重要なことだと思います。そういった意味で、「さらに推進していけるとよい。」と思っていますが、やはり、他の業務と両立しながら行っていくのは、負担も大きいと思います。地域の方とつながっていく楽しさや、実施後の効果を感じながら、それをエネルギーに変えて頑張っています。
- 1年目なので分からないことが多かった。十分機能したとは言えない。少しずつ情報を集めいろいろな授業アイデアをストックし自校の計画を充実させていきたい。
- 担任の先生が地域連携教員である場合は負担が大きいと思います。校務分掌の軽減等の配慮が必要だと思います。コーディネーターとなる人への謝礼、事務用品、茶菓子等の予算が少しでもいいのでほしいと感じています。
- 開かれた学校づくりを推進するために、地域連携教員は地域と学校をつなぐ大事な役割があることを改めて感じます。これまでの取組を今後引き継げるようきちんと記録を残すとともに、新たな人材を発掘していくことが大切だと考えています。
- 本校は社会教育主事が4名いるものの、その資格が十分に生かされない状況がある。これは、他の校務もあり、校務以外の仕事となってしまうため、本来の業務に支障のないように配慮して協力を得ることが必要になっている。学習の支援が学校には必要性があるが、地域住民が学習の支援としてボランティア活動をするには、保護者の

理解やボランティアの人材確保、支援についての綿密な計画が必要であると感じている。

- 大変やりがいのある職務です。今後も、学校教育目標の具現化に向けて、地域連携を推進していきたいと思います。
- 地域と学校のつながりが強く、共に様々な行事を行っている学校では設置する効果があるが、つながりが浅く、行事がない学校では新たなものを作り出すのは非常に難しい。
- 今後、地域の教育力を児童の教育活動の中に取り組み、児童の成長につなげていくことができるように配慮していく。
- 一番の副産物は、地域の子育て中の女性に活躍の場を与えられたことである。出産前は、社会でばりばり働いていたのに、出産後はどうしても家に引きこもりがちになりフラストレーションを抱えがちになる。しかし、祖父母の協力も得て、学校に時々出かけ、学校や児童に必要とされていることを感じ、生き生きとボランティア活動に参加してくださっている。これは思いがけない成果であった。
- 新任地域連携教員として取り組んでまいりましたが、実践としては不十分であり、さらに具体的な取組を積み重ねていく必要性を実感しています。地域の力を教育活動に取り入れる効果を考えながら計画的に実践することや日常的に学校と地域双方ができる限り負担感なく取り組めることを念頭に置き、役割を果たしていければと思います。
- 地域の人に顔を覚えてもらい、声をかけて頂く事が多くなった。地域の人とコミュニケーションがとりやすくなったことが一番の成果である。
- 社会教育主事の活躍の場として、地域連携教員が設置されたので、社会教育主事がいるなら、その方を優先的に地域連携教員になってもらいたい。
- 地域連携教員が配置されたことで、学校全体のニーズをつかむことができ、よりよい学習活動ができるようボランティアの要請が図られるようになった。
- クラス担任との兼務では活動が十分にできない。
- 今年度は、新しい参画行事の企画運営もあり、地域コーディネーターをはじめ、たくさんの方々と意見交換したり、一緒に行事運営ができたり、とても大変なことが多かった時期がありましたが、新しい発見もたくさんあり、経験できて良かったと感じています。
- 赴任した一年目だったので、地域を知ることが精一杯で十分な仕事ができず申し訳なかった。
- 地域連携の重要性が今後益々大切になることから、地域連携教員としての使命感を自覚するとともに、若手教員への啓発などもしていきたいと思う。
- 他業務との兼ね合いや教頭との業務連携を調整していきたいと思う。
- 児童がよりよい成長をしていくために有効な地域連携を進めることができればと思います。
- 地域を知る努力をもっとしなければと思っています。
- 学校からの情報発信（要望など）を地域は待っている。地域に広く目を向け、地域の声を聞きながら、学校からも地域に出向いていくことが大切だと思う。
- 異動1年目や学級担任としての業務の困難さが、研修会等でも一番の話題でした。
- 地域密着型の学校なので、互いに協力し合い、充実した活動ができていると思う。
- 今まで生涯学習の中で行ってきたことと重なる部分が多いので、生涯学習担当と連携しておこなっていくのがよいと思います。社教主事の資格を持っている方がなった方がよいのではと思います。
- 手探り状態の一年でした。まだまだ、何をどうすれば良いのか…といった状態です。これからも、いろいろな情報を得て、自分がすべきことをやっていこうと考えています。（考えるだけでなく、実行しなければいけません）
- 地域との関わりかたについて、副校長と運動した活動ができるようにしていかなければならないと感じています。
- まだ職務に対する理解が不十分で、計画にあることを何とかやっている状態である。よりよい計画を立て、改善を図っていきたい。
- 私は、現在の勤務校に延べ11年勤務している。地域の様子を把握していたり、地域のキーパーソンと顔見知りだったりすることから、地域と連絡・連携をとりやすい。しかし、赴任したばかりの教員や担任をもつ教員が、地域連携教員になると多忙感が増してしまう可能性がある。一人に任せるだけでなく、各学校において組織的な地域連携が重要になると思う。市や地区ごとに地域連携教員以外の教員も参加できる研修があるとよいと思います。
- コーディネーターだけでなく、長寿会・社会福祉協議会・育成会・自治会長などいろいろな方に顔と名前を覚えていただき、連携をとりやすくなった感じがする。地域の方が児童とのふれあいを楽しみにしてくれたり、児童の活動が意欲的になったりしたことがよかった。
- 地域連携は、学校教育の課題解決に大きく役立つと思うので、人・もの・予算をつけてほしい。

- 人と人をつなぐこともですが、地域の文化や歴史に興味関心がないと、と思います。地域学習の授業にもっと取り組みたいと思います。
- 社会教育主事有資格者というだけの立場では、校内での役割等が明確ではなかったが、地域連携教員が新設されたことで、校務分掌上の立場ややるべきことが明確になり、たいへん活動しやすくなった。
- 地域連携教員の活動が定着し、今後、とちぎの教育がさらに充実することを期待します。
- 地域連携教員として各種研修への参加や実践を通して、その重要性が分かってきました。他地域や異校種の地域連携を知ることもとても大切だと思いました。
- 学習支援をしてくださる組織ができあがっているので、「地域連携教員となって」を特に感じていない。
- コーディネーターがいないと負担の大きい仕事になりやすい。コーディネーターとの連携・協力関係が必須で、効果的効率的な活動につながる。

■小学校 教諭(担任)

- 社会教育主事の養成にもっと力を入れてほしい。教員養成課程の段階で社会教育主事への啓発をやってほしい。
- 学年主任・担任の立場では、自由に動くことができる時間が限られているため、学校全体の地域連携を推進することは難しいと感じている。
- 学級担任が地域連携教員となることは実質無理があると感じます。良い勉強にはなっていると思いますが、学級経営、授業、校務等を行う時間が多く、日中外部人材と関わることや連絡を取り合うことは不可能です。地域連携教員としての仕事はできていないのが実情です。また、行政からの支援や指導もないに等しいので、コーディネーターをどのように設置したらよいかも分かりませんし、設置した後の対応も分かりません。勉強不足かも知れませんが、また、効果的な地域連携活動ができているとは言えない現状を感じます。
- 自分自身が業務の理解不足もあり、十分役割を果たせず申し訳ないと感じている。
- 今後も研修を深めていきたいと思う。
- 異動してきてすぐになったため、地域の様子や組織、方法など分からないままやっているの、不安が大きい。また、学校規模も大きい、他の学年の様子もよくわからないことが多い。
- 学校と地域が連携することは、とても意義のあることだと思うので、人数を増やして力を入れるべきと考える。
- 学級担任もしているため、各学年や学校としての要望を吸い上げ、どのような形でそれを具現化していくか考える余裕がなかった。地域連携教員に時間や職務の余裕のようなものがあると活動できるのではないかとも思う。年々、社会教育主事の資格を持つ人材は増えていると思うが学校に戻ると、学校内の仕事に押しつぶされ、資格を十二分に発揮できていないのではないかとも思える。
- 地域連携教員の活動がうまくいくには、学校教育関係の研修（管理職）に、地域連携教員の研修を開催する。
- 「ボランティアの世代交代を少しずつおこなえたら。」と地域コーディネーターの方とよく話しています。学年の保護者にも呼びかけるようにしていますが、若い世代の方は仕事を持っている人が多いため、なかなかうまくいきません。この課題を何とか改善したいです。
- 教員が本当に必要だと感じている場面に、学校支援ボランティアの力を活用することができれば、教育効果は大いに高まるとともに、教員の地域連携に対する理解も深まると考える。そのためには、教員のニーズを把握すること、それをタイミングよく実現すること、教員の連携に関わる負担を減らすことが大切だと考える。
- 行政主導でコーディネーターを育成してほしい。学校でコーディネーターを探すのは困難。
- 学級担任をもっていると、地域連携教員としての十分な役目を果たすことは難しいと思う。
- 地域連携により、学校における様々な問題解決とともに、地域の活性化ができるのでさらに推進していきたいです。
- 担任として、地域連携に関する仕事をするためには、教頭や教務主任の協力が必要である。
- 地域連携教員として働くことができ、地域とのつながりがさらに深まるとともに自分の教育観に変化が生じた。そして、より良い指導や支援ができるようになり、視野が広がったと思う。さらに次年度の研修や実践をどう深化させていくかなどの課題も見えてきて、意欲向上につながっている。
- 正直他の公務が優先で、地域連携教員としての仕事は後回しになっているのが現状です。地域連携を進めることの効果や大切さは理解しているつもりだが、なかなか時間の確保が難しいと感じています。
- 地域連携教員として、すこしでも外部団体やボランティアとの連絡調整が取りやすいように、リストの洗い出しや使いやすいリストの作成に協力したいと思います。

- 社会教育主事の資格あるいは研修は必要であるが、まずシステム作り、コーディネーターの養成をお願いしたい。教員は異動により変わるが、地域に根付く人材は変わらない。まず地域人材の育成が必要である。資格を持った人数がいるだけでなく、他の県で地域連携が行われている実践例をもとに考えてほしい。
- 学校の中に、地域の方が入ってくることは、子供たちも多くの人中ですぐ育まれて育つことができますし、支援を受けることもできるので、とてもよいことかと思えます。
- 学校と地域が連携することの重要性を認識し、地域連携教員としての役割をしっかりと果たさなければならないと感じています。
- 円滑な学校経営が運営されるための一助となるよう、取組を充実させていくことが重要であると思う。
- 「地域連携教員になった際の効果」については、栃木市のとちぎ未来アシストネットの学校コーディネーターを担当したときと同様です。「地域連携教員」は学校コーディネーターと比べて質量共に大きく拡大しています。担任の立場では地域連携教員に求められる全てを把握することは無理です。本校は分担されていて大変助かっています。学校コーディネーターや地域連携教員が学校全体の担当として業務を行うことはある程度可能ですが、地域コーディネーターは地域の代表ではありません。「地域」は大変多様で広いものです。文科省のモデルでは地域コーディネーターが地域の代表・窓口のような形になっていますが、仮に学校で学校支援ボランティアを探してほしいと要請しても全てを網羅することは難しいです。地域コーディネーターに過剰な負担をかけないような配慮も必要です。実際に過去3年間関わってきて文科省のモデル図のあり方は現実には難しいのではと思います。
- 本校では、地域連携に関する活動の連絡窓口や調整は、学年主任が中心となって行い、スムーズに進められている。また、渉外関係は、教頭先生が中心となって行っているため、地域連携教員が中心となる場合は少ない。
- コーディネーターが地域（市）に一人しかいないため、増やしていただくか、地域ごとに確保しないと厳しい。
- 学級担任なのでなかなか時間が取れず、実際にどんな活動ができるのかを模索中です。
- 今年度、地域連携教員になって、もっと学校と地域を結んでいかなければいけないと思っています。まだまだ、宣伝不足なので、来年度に向けてさらに職員の意識を高めていきたいと思っています。
- 地域連携全体計画・年間活動計画の作成・見直しの立ち上げの1年であった。地域連携の基となるのは、人と人との信頼関係だと思う。積極的に学校の外に出ようと思っはいるのだが、なかなか実行しないまま、1年がたってしまった。
- 地域連携教員という役割は、とてもやりがいのあるものだと感じていますが、自分自身に余裕がないときには、活動が十分でない時があるのが残念です。本校のように小規模校においては、地域に学び、地域と学ぶことができることは、教育活動の幅が広がるので、とてもよいことだと思います。
- 仕事の進め方がはっきり分からない。また、担任や複数の校務分掌を兼務しながらの遂行は、少々困難があるように感じる。
- 地域連携教員としての活動はまだまだ不十分だと思うが、本校の教育活動における地域連携は、職員の協力体制により十分にとれていると思う。今後も職員、地域と協力しながら、より良い活動を充実させたい。
- 担任と地域連携教員を兼ねていると、多忙で連絡調整の仕事が十分できないときがあると感じています。他の先生方との役割分担をしたり、協力していただいたりすることが大切だと思います。
- とにかく忙しくてなかなか地域連携の仕事ができていないので、今後工夫をしながら仕事を進めていきたい。
- 地域連携に関わる業務について、教頭、主幹教諭も携わってくださり、担任をもってクラスの指導にあたっている自分としては、とてもありがたい。
- 市に聞けば分かることなのかもしれませんが、コーディネーターの存在は不明です。もしいるのであれば、毎年年度当初に顔合わせなどが出来るように計画して欲しいと思います。受け身のようなのですが。
- 名前ばかりで、何も取り組んでいないのが申し訳ない。
- もともと地域人材の活用が活発な地域のため、地域連携教員としての立場がなくても、地域との連携が図られていると思います。より地域連携を進めていくためには、無担が地域連携教員をやり、窓口として連携を進めていけば、教育活動でもっと地域との連携が図られていくのではないかと思います。
- 地域連携教員となり、学校に関わる様々な人と顔見知りになることができた。その結果、地域の特色と学校が地域の中で、どのような位置づけなのかが分かってきた。以前よりもボランティアが校内で活動する機会が増えたので、他の教員のボランティアへの考え方などが変わってきている。そういう、教員の意識改革がとても重要だと感じている。
- 研修に参加し、地域連携教員について今後勉強していきたいと思っています。また、地域連携教員同士の活動や悩みについて話せる場があればいいと思います。
- 本アンケートについては、申し訳ない気持ちで解答しています。小規模校の実情もあり、なかなか地域連携教員の

仕事にまで手が回りません。やるべきことは多かったと考えていますが、上記のような実情で現在に至っています。内容的には本校として取り組んでいないわけではなく、実務的には対外的なものが多いため、副校長先生が多くを背負って行っているところです。

- 他の業務が多忙なため、地域連携に関する業務の時間がなかなかとれない状況である。連絡調整等は担任が行うのは難しいと感じている。
- 今後はますます地域の教育力を生かすためにも連携が大切になるので、学校での取組をさらに地域の方々に知ってもらい参加を呼びかけたり、既存のボランティア活動をさらに活性化させたり、他の先生方と協力しながら尽力していきたい。
- 地域連携教員としてやりがいを感じつつも、他の職務に忙殺されてできることがもっとあるのではと感じる毎日です。ただ、2年目となり学校教育ボランティアの活動内容も少しずつ充実してきました。また、地域連携教員対象の研修に参加できることで、視野が広がり大変ありがたく感じています。
- 担任として、地域連携教員の仕事を全うできず、申し訳なく感じています。
- 新年度の計画立案に十分に本年度の反省を生かし、事業の充実に努めたい。
- 今まで上手く動いていたものが、地域連携教員が入ってかえってトラブルが起きている。間に入る人が増えたことにより、連絡調整に時間がかかるようになり、利用するのを止めてしまう（計画が間に合わなくなる）ことも起きている。地域連携教員は紹介や記録の収拾程度にとどめ、連絡調整は直接担任や係が行った方がよい。
- 地域連携教員の研修でよく話題になるのは、担任を持っているとボランティアさんとの対応の時間がうまく取れなくて、担任業務に差支える場合があるということです。地域連携教員を選ぶ際に考慮していただきたいです。
- 今年初めてなので、まだ自分の役割を把握できておらず、十分な活動ができていない。ボランティアの方が学校に入るということで、活動の幅が広がったり、安全面の確保ができたりとメリットは大きい。反面、先生方が負担に感じていることもあるので、この課題を解決するのは地域連携教員の仕事なのかなとも思う。
- 地域連携に対する理解を深め、地域連携が進むよう努力したいです。
- これからも地域連携に関する最新情報を提供していただけると幸いです。
- 自分が直接繋がなくても各学年で対応している状況で、必要性があまり感じられません。
- 今年、初めて地域連携教員になって、忙しい中、自分なりに仕事内容を理解し仕事に携わることができた。学校と地域を結び付けるうえでの重要性を更に認識し取り組んでいきたい。
- 地域連携教員として、なかなか活動できていないのが現状です。何から、取りかかっていたらよいか、考えて実践できるようにしていきたいです。
- 担任をしながら、地域連携教員をすることの難しさを感じています。できれば、顔つなぎして、つながりを作っていきたいと思いましたが、学校に来ていただいた方に顔を出したり、お話を伺ったりすることは時間的に厳しいものがありました。
- 今年度から地域連携教員となり、業務内容等がよく分からないままスタートした。しかし、さまざまな研修に参加させていただき、今後の地域連携の必要性を強く感じるようになった。今後、地域連携教員としての責務をしっかりと果たし、コーディネーターと協力して活動を充実させていくことで、子どもたちへのよりよい教育活動となるよう努力していきたい。
- 地域の方々とお会いする機会が増えたので、学校の情報や地域の情報交換が十分できるようになりました。社会教育主事講習会で学んだ地域との連携の大切さを改めて感じました。これからも積極的に地域の方と連携していきたいと思います。
- 今後も地域連携教員として研修を重ねていきたいと思います。
- 担任を持ちながらの地域連携に関する業務は難しい。
- 様々な研修等を通して、地域連携の重要性を実感していますが、思うように進めることができない現状です。少しずつでもできることに取り組んでいきたいと思います。
- 地域連携教員が設置された意義や重要性は理解しているつもりだが、学級担任との両立は難しい。
- 2年目になりますが、まだまだ地域連携教員という仕事を完全に理解していないなど、自己の研修が足りないと思います。まだ計画や年間の見通しが分からないところもあり、マニュアルを参考にしながら行っている状況です。
- 研修等や横のつながりを通し、いろいろな実践校の連携教員や管理職の先生方の意見や考えを聞き、自分の勤務校にあった実践をどんどんしていきたいと感じています。いろいろな変化に対応し、地域と学校のよりよい関係をつくっていく手伝いをしたいと考えます。

■小学校 教諭(担任外)・その他(講師等)

- 異動1年目で地域のことがよく分からず地域連携教員としてどのように動いていいのかわからない状況です。
- 本校にはしっかりとしたボランティアコーディネーターが以前からいて、その方との連絡調整役をしている。それ以外の活動については検討中である。
- 本年度本校に異動してきて、初めて地域連携教員となりいまだに地域のことにってはわからないことが多い。活動内容や連絡先などはファイルで引継がれているので担当が変わっても対応できるが、直接会って知り合うことでより深く関わられるようになってくると思う。
- 地域の中の学校という目で見える機会が多くなった。また、外部ボランティアの方々に連絡を取ったり新たな人材を見つけていったりする課程で地域の方々の温かさ等を感じることができた。また、電話だけでなく実際にお目にかかり話すことの効果なども感じることもできた。
- 地域のコーディネーターがいないので、地域連携教員としての具体的な活動がやりづらい状況である。
- 地域連携教員という立場を、学校の中でどう位置づけていくのかは、学校規模、職員及び校務分掌の構成、市町の実情によりかなり違うのではないと思う。率先して学校と地域を結びつける役割を担うことが可能な学校、情報の収集及び提供の役割に限定される学校、教委委員会に地域連携の窓口があり、そこを頼りに地域連携の体制が成立している学校など、多様な位置づけについて考査する必要があると思う。
- まだ地域連携指導教員としての仕事が飲み込めておらず、少しずつ学びながら、ほかの先生方の支援を仰ぎつつ、できることから取り組んでいきたいと思えます。
- 地域連携による活動のねらいに、キャリア教育の育成目標(基礎的・汎用的能力)をリンクさせると、意図的・系統的になると考えるが、キャリア教育そのものの理解が進んでおらず、思うように推進できない。
- 「地域連携教員」という肩書きを、機会ある度に活用してきましたが、まだ地域に浸透できていません。他校では、教頭先生が兼務されることが多く、一般教員では活動の幅が狭くなってしまいがちであることに課題を感じています。2年目の活動になり、やっと地域の方に顔を覚えていただけってきた実感があります。積極的・地域に出向いて、人とつながる機会がもてるよう、努力を重ねていきたいと思えます。
- 地域を理解し、地域との連携を図り支援をいただく上でとてもやりがいがある。毎月の職員会議時に、「地域連携教員より」などを紹介し、地域との連携の大切さを職員に啓発し研修を続けている。また、「外部人材・地域教材活用の記録」の作成を進んで行う職員も増えつつあり、指導の成果や今後の課題などを要点を絞って書くことができ、次への活動に生かすよう取り組んでいる。先生方は、地域連携の大切さを実感し取り組み子供たちの教育効果を高めている。
- 地域人材の発掘(修繕・学習支援ボランティアだけでなく、行政も含め児童と多様な手段で関わる人材)のために、今以上の学校から地域への積極的な情報発信が必要だと思われる。また、そのような人材の情報を校内で共有することが地域との連携を密にする1つの手段と考えます。
- 地域連携教員についての捉え方が、教職員間で異なります。また、地域連携教員の業務内容は、これまで他の校務分掌の教員が分けて行っていたものであり、改めて自分が担当することはありません。地域との連携はしていません。ケースに応じて学年、教頭等が窓口になっている流れが続いており、学校での位置づけは曖昧です。自分に意識があっても校内体制がそうならないため、実務が伴わない現状をご容赦いただければと思います。
- 今後、年度内に研修があるので、さらに理解や知識を深め実践していきたい(来年度のためにも)
- 地域の人々との繋がりを多くもつようにするとともに深くするように心がけたい。まだまだ、やることがたくさんあるので少しずつこなしていきたい。

■中学校 教頭・主幹教諭・教務主任

- 地域連携教員の必要性和重要性を感じますが、地域との連携の必要性和重要性を全校体制で理解し、協力しているという組織・体制を醸成していくことが大切であると思えます。
- 壬生町は教育委員会が積極的にリーダーシップをとってくれるので地域と学校の交流が盛んに行われている。ありがたい。
- 地域コーディネーターや河内中 魅力ある学校づくり地域協議会などとの連携を密にし、有効活用して、学校や地域にとってプラスになることを「無理はしすぎずに、できる範囲内」で少しずつ具体的な実践にうつしていきたい。
- 教育改革の方向性として、地域連携教員の必要性等については十分に理解できるが、多忙感を感じている連携教員は多いと思う。人的な方策が必要なのではないだろうか。
- 外部(お世話になる方々)との連絡調整が何度も必要になる場合があるので、学年等に属さずフリーに動ける立場の教員が地域連携教員には向いていると思う。また、地域のことを理解していないと連携は難しい。赴任1年目の教員などはつらいかもしれない。

- 適任の地域コーディネーターを学校で見つけるのは難しく、選出から地域の行政機関等の主体的関わりがほしい。市町や地域による行政機関等の連携体制、支援体制の格差が、学校の感じる負担感の温度差になっていると思う。
- 地域連携教員は、学校の対外的な窓口である教頭が行った方が連絡・調整がスムーズにできる。
- 教頭という立場であるため地域連携教員という意識が低かったように思う。
- 教頭という立場での関わりなので、地域とのおつきあいは大切な業務の一つであるが、すでに地域と関わる様々な行事が実施されている。その中でそれらをどう整理し、学校経営に生かせるような地域との関わりを再構築しているか、地域コーディネーターをどう生かしていけるかなど、難しさを感じる。
- 地域連携教員の条件について、社会教育主事有資格者であること、または教頭でもよいこと等あるが、そこに年齢差があり、協議等では違和感をもつこともある。現在の他の分掌も教頭が音頭をとって、教諭が企画や連絡調整、実践していることも多い。それではダメなのだろうか。様々な考え方があり悩むところである。
- 全ての学校に社会教育主事有資格者がいるわけではないので、重要性は理解できても、有資格者でない場合は細かな部分への対応が難しい。
- 地域をよく知る教員、特に何年もその学校で勤めていて地域をよく知る教員が、地域連携教員として業務遂行することがこの分掌では、有効かと思えます。
- 今年度の4月、本校に初めて赴任した。本地区での勤務も初めてであったので、地域や住民との交流を積極的に行う必要があると強く感じている。他の業務もあることから、外出しての交渉や交流を行うには厳しい時期もあった。今後も、無理をせずに、生徒や教職員、地域のためになることを進めていきたい。
- 地域の教育資源を効果的に活用した「本校(本地域)ならでは」のより充実した教育活動の実現目指して、学校のニーズを踏まえながら、教職員や地域コーディネーターとの連携・協力をさらに推進する必要がある。
- 教頭職との兼務に難しさを感じる。
- まだまだやれることがあると思うので、一步一步、前進していきたい。
- やりがいのある立場だが、教頭としての業務もあり十分な活動ができないことが残念である。
- 28年度に向けて、「地域連携推進計画」を作成中です。年度当初に全職員に示し、来年度の地域連携に全職員で取り組めるようにしたいと思っています。
- 従前とあまり変わらないように思える。
- 研修会を通じて、地域との連携について深く考える場面を得られたことは参考になりました。
- 学校教育の充実をさらに図っていくためには、地域との連携・協働は必要不可欠である。そのためにも、学校と地域の方々との話し合いの場を定期的に設定し、自由に意見交換や情報の共有を行っていく必要がある。
- 地域連携教員として何をしたらよいか試行錯誤しているところです。もっと積極的に地域と連携しての活動を行っていききたいところですが、学校としての行事等も多々あり、思うように入れられない現実があります。また、地域のコーディネーターの方について自分がよく理解できていないため、連携が深まっていないところもあるので、今後まず地域のコーディネーターとの連携を深めていきたいと考えています。
- 地域連携の必要性を感じますが、現在の多忙な学校教育の中に新たに活動を入れることは困難であることを感じます。地域連携教員がリーダーシップを発揮し、連携を図り、単年ではなく継続的に続くように組織をつくるのが大切であると思えます。
- 元々地域との連携ができていた地域なので、「今更なぜ地域連携？」という感じだった。今までの行事も、地域連携教員としてやっているのではなく、教務としてやっているだけである。
- 中学校でも、自分が思っていたよりも地域の人材を活用していたことがわかった。各行事を担当者が地域人材等と連絡を取り合って実施している現在の形式に特に問題は無い。他の職員も、お互いの多忙さを配慮してか、地域連携教員が外部とのやり取りをすべきとは考えていないようである。これから新しい行事等を行う際は地域連携教員が最初の窓口になることが必要なことであると思う。
- 本校では、これまでも地域連携の取り組みがなされてきているので、新たな取組を増やすよりも、これまでのものを組織的・有機的に整理し、より意味のある充実したものになるようにしていきたい。
- 今まで行ってきた活動を地域連携の視点から見るができるようになった。ただ、連携を進めていくには、改善の余地が多くあるのが本校の現状である。

■中学校 教諭(担任)

- 地域連携教員として携わるようになると、地域の教育力の大きさを改めて感じた。本校は地域の協力をたくさん得ることができ学校と地域が近い存在である。さらに、よい活動になるように地域連携教員として働きかけをしたい。

- 地域と連携して学校行事など、さらに盛り上げることができています。今後はさらに、本校らしい取り組みをしていきたいと考えております。
- 連携教員の校務分掌が位置づけされる前から地域との連携を重ねてきており、スムーズな行事の運営がされているのであえて意見や感想はありません。
- 地域連携教員になって、多くの研修会に参加させていただいて勉強になりました。研修で行政職の方の意見も聞くことができ参考になりました。これからは、教員、公務員だけでなく一般企業の方と知り合う機会をどこかに求め、人脈を広げていきたいと考えています。
- 今年は、新しいことを始めなくてはと誤解していましたが、来年度は今ある学校行事や生活の中に地域の協力を得られるように準備をしていきたい。
- 担任、部活動顧問をやっていると、多忙感があります。研修だけではなく、これからコミュニティスクールを発足していくにあたり、十分時間を費やせるかが不安です。
- まだ、十分な取組ができていないので、先進的な取組を参考にしながら、本校として組織的な活動ができるよう整備していきたいと思います。
- 労力に見合うだけの効果があるとは思えません。
- なかなか思うように活動できていないが、管理職の先生方に励ましていただき、地域との連携を進めている。地域連携は、人と人の結びつきなので、ある程度関係づくりや、教員、地域の方、関係機関との情報交換の時間が必要である。授業時数、校務分掌等の問題を克服することで取り組みは大きく変わると思われる。
- 地域連携教員という立場ではありますが、なかなかうまく運営できていないことを反省しています。学校支援ボランティアの方々の協力が得られやすい環境作りや学校が地域に情報を発信できるよう、積極的に働きかけなければならないと感じています。
- 地域連携は重要であることは自分としてはとても認識している。しかし、学校の業務が多忙のために、そこまで回らないことや、地域とのコミュニケーションをとる時間もない。そのために、地域連携の仕事がなかなかできないというジレンマがある。また、地域連携教員の立場も確立していないために、手探り状態である。
- 様々な方々の力の大きさ、ありがたさを感じます。
- 計画立案、他の職員との連絡調整、地域の方達との対話など、やりたいことはたくさんあったのですが、毎日の多忙により、十分な働きができなかったことをとても申し訳なく思っています。今年度と次年度に向けて、地域や職員との対話、聞き取りを充実させ、再来年度あたりには一つの明確な計画立案、組織の役割の明確化、実践を進めていきたいと考えています。
- 地域の方や保護者、PTA 役員の方々などと良く話をするようになり、学校がどのように見られているのか、学校が何を求められているのか意識するようになった。地域や保護者の支えや理解、協力、支援があって、学校での教育が成り立っていると感じる。学校・家庭・地域がよりお互いの立場や意見、願いや悩みを理解し合い、生徒たちをみんなで見守り、育てていけたらいいと思う。
- どういうときに、どう動けば良いのか迷っていることが多かったです。
- 普段から学校とつながることの多い生涯学習施設や公民館、社会福祉協議会等の関係機関に、学校に「地域連携教員」が配置され組織的に地域連携教育活動を進めていくことになったことを、もっとアピールするとよいかと思う。
- 本校では、以前から地域との連携が円滑に進められており、校務分掌における各担当者において教育活動が効率的に展開されている。また、中学校現場では、学級担任をしながら様々な校務分掌を抱えている状況において、地域連携教員の職責を十分に果たすことが困難である。
- 初年度ということもあり、何をしたいのかわからないまま時間が過ぎた。研修等で他校の地域連携教員と話す機会もあったが、みんな手探りで活動をしている様子が聞けた。各校での取り組みやノウハウを共有していくことで、それぞれの学校で地域との連携が活発になっていくのではないかと感じた。
- 担任として学校全体に関わる地域連携教員をすることは難しい。
- ボランティアの方とのコミュニケーションの取り方、負担にならずに続けられる活動のあり方など、まだまだ模索中です。
- 教頭や先生方の協力を得ることができて、大変有難いと思っている。
- 地域連携教員は「学校の顔」、という認識を強くもつようになった。学区内の自治会長さんと連絡を取ることで、学校の窓口にもなることができた。また、さまざまな研修に参加すると、実践例報告はほとんどが「小学校」であり、中学校の実践例が乏しい。そのため、具体的にどのように地域人材の協力を得れば良いのか分からないところがある。そのため今年度は、「中学生が地域に出る」と言うことで、公民館の文化祭に本校の合唱部と吹奏楽部の発表を取り入れていただいた。これからの地域連携教員研修では、中学校の実践例を多く知らせていただくと助かります。もし難しければ、分科会などでの話し合いの場があると良いと思います。今年度は、手探りの状態で地

域連携教員として動いてきましたが、来年度は今年度よりも、さらに活発に学校と地域の結びつきを図れるように、計画的に実践していきたいと考えています。

- 小規模校で学級担任もしているので、地域連携教員の他、多くの校務分掌もあるのが現状です。地域連携教員として実際に活動することは充実感もありますが、なかなか時間がとれないと感じています。
- 勤務時間内に地域連携業務に関する時間の確保ができない。
- もっと力を注ぎたい気持ちはあるが、他の業務に時間がかかってしまう。
- 「担任だから地域連携は実質的に動けない」という考えをもつ教職員も多い気がします。本当に地域連携を理解していればそのような考えには至らないと考えます。保護者や地域との関わり方、挨拶や接遇
- 学級担任や他の校務分掌と平行して地域連携教員としての活動を行うことは大変でもあるが、地域の方と知り合い、コミュニケーションを図り、校区のことを理解することができる点はとても意義のあることだと思う。
- 本校に来てまだ 1 年目であり、まだ十分に地域の状況や実態がつかめていないため、まずは地域連携教員である自分の顔と名前を覚えてもらえるよ地域の方との交流を深めている状況である。
- なかなか、時間がとれずに、効果的な地域の資料や人材を活用できなかった。
- 授業やその他の校務に関わる時間、部活動との兼ね合いで十分に時間確保ができていません。
- 今年度社会教育主事講習を受講させていただいてからの地域連携教員ということで、もっと地域を知っていききたいと思います。

■ 中学校 教諭(担任外)・その他(講師等)

- 地域連携教員となったため、その研修に参加する機会が増え、見識が深まった。
- 学校内は私、学校外は校長と自然に担当がわかれ、動くことができました。この後、地域とつながることの良さを生徒・保護者にどんどん発信していくことが大切だと思っています。また、他の教員にも伝えることもそれ以上に大事なことだと思います。
- 地域連携教員は、学校の教育活動に地域住民の協力を得たり、生徒が地域に社会貢献活動を行う際のコーディネートをすることがおもな業務と考えていましたが、北海道教育大の廣瀬隆人先生によれば、個人的に問題を抱える生徒とその家庭に関わっていくことの方がむしろ重要な柱であるということのようです。中学校では、この業務を生徒指導主事がおもに担っていると思うのですが、地域連携教員の立場としては何をしたらいいのでしょうか。
- 今まで教頭が行ってきた業務もあり、自分が何をどこまでやればいいのか分らず、うまく動けなかった
- 地域連携推進教師には、学校が地域社会を育て、地域社会が学校(児童生徒)を育て、相互に好循環が生まれるよう貢献していくことが求められていると考えている。焦らずに一歩一歩進めていきたいと考えている。
- 先にも書きましたが、中学校では部活動等があるため、なかなか新たな地域連携の機会を増やすのは難しいです。いま行っている計画を深めていったり、発展させていったりすることを目指していきたいです。
- 本校では、以前から各学年・教科・行事等で地域人材を活用した取り組みが多かったので、新しくはじめるというより、計画をまとめる活動を中心に行っている。
- 既存の連携事業を実施する事が中心で、新たな活動を企画する余裕がない。どうしても他の主たる業務(学年主任)が仕事の中心となり、地域連携の仕事が十分に行えていない。
- 地域連携教員となって 2 年目ですが、学校内で重要なポストにいることを実感しています。だからこそ、はたらくしやすい環境づくり、地域へ動きやすい立場にするなどの校内人事の配慮が必要だと思っています。
- 公民館で行われている「学習支援活動」にもっと協力していきたいと思っている。社教主事の資格を取りたい。
- 「地域連携」というと、「学校支援ボランティア」のように校内に招き入れることがメインとなっているが、生徒が校外へ出て行くための地域連携についても考えて行く必要があると思う。
- 西方中学校区は、地域連携教育の蓄積が非常に多く、生徒の地域への活動も活発で、地域もよく理解している。
- 同じ中学校の学区でも、地域により中心になって活動している方々の考え方に違いがあることが分かった。しかし、中心になっている方々が、自分の地域に対する使命感を持っていることは、共通していると思う。
- 対外的な連絡・調整が多く、立場的に教頭が地域連携教員を兼ねることが適切かと思われる。
- 地域連携教員の必要性は今年 1 年間で感じました。ただ、地域にとって学校=副校長であり校長です。赴任 1 年目で地域に溶け込むことは大変に難しいと感じました。現在教員の異動は 7 年ですが、地域を理解するのに 3 年かかるような気がします。つまり、短く保護者や地域と気持ちが通う頃異動になり満足した職務にならない気がして残念です。学校内での組織できちんとした位置づけがあると良いと感じました。

- 今年度初めて担当し、自分自身これまで携わった経験のない分野だったので、積極的に活動することができなかった。今後は、多くの先生方に協力していただきながら、チーム体制で運営していくことが大切だと思っている。
- 学校と地域との連携の重要さを実感した 2 年間でした。教育委員会主催の研修等大変勉強になりました。ありがとうございました。
- まだまだ校内での認知度が低いと実感する。数年がかりで変えていくつもりで、ビジョンをもって取り組んでいかなければならない。
- もっと地域と連携をとり、学校の職員にも理解してもらえるような体勢をつくっていきたいと思う。
- 正直なところ、多忙ではあります。しかし、学校では学べないことや、社会で身に付けなければならない常識や礼儀などを、地域の大人の目で見いただいています。地域で生徒を育てて頂けていることがよくわかります。たいへんありがたく思います。
- 暫定的な年間計画を作成したものの、地域連携教員としての業務を十分行っているとは言い難い。他の職員に働きかけて新たな活動を 1 つでもつくりたいと考えている。
- 地域連携教員の役職を担当しているが、地域の総会や行事に参加して、人脈をつくるのが大切と考える。
- 新たに何かを始めるといってではなく、ここまで積み重ねてきたノウハウが十分に各担当において蓄積されており、いかに地域連携教員がそれらの動きを統括して把握できるか。また、新たな連携については担当窓口となり、つないでいくという役割が大切だと感じた。
- 地域の行事に関する取組は積極的にできているが、校内の諸計画や細かい組織作りができていないため校内での活動があまり進んでいない状況にあるので、これから取り組んでいきたいと思っています。
- 連携する内容や授業時数によるが、勤務時間内外問わず多忙感を感じる時がある。勤務時間外での行事などでは勤務をどのように対応したらいいのか悩むことがある。地域の方に学校や生徒の努力しているところを褒めていただいたり地域で生徒達が活躍して貢献したりすることが大変嬉しい。学校に関心をもってもらい学校を支える人達を増やしたい。
- 地域の会議や文化祭に参加したときの勤務対応が不透明である。県としての基準を決めていただきたい。

■高等学校

- 頑張ります。
- 定時制高校への偏見などが、連携事業を行う支障となっており、粘り強い宣伝活動が必要と感じている。
- 地域と連携する行事を行う場合、企画立案・連絡調整・文書処理・予算処理等ほとんどの仕事が、地域連携教員に一極集中し、仕事量がかなり増えてしまった。
- 管理職に業務内容を尋ねても、よくわからないという答えが返ってくる。自分も含めて職員全体が地域連携について全く知識がない。この状態でどんな仕事をやれと言うのか。勝手にポストだけ作っておいて、大した説明もないままに係になんかやれというのは無責任だ。だいたい地域が成熟していないのに学校主導で連携ができるわけがない。そちらの方まで学校で教育しなければならないのか。このままの体制でこの制度を続けるくらいなら即刻廃止して校内で完結する方法を模索した方がいい。
- 地域連携の重要性や必要性は理解しているが、夜間定時制という学校の事情や教員の人数から、学校行事を通して地域との連携をはかる事柄が多く、地域連携教員としての活動は思うように進まないのが実態である。
- 地域とのつながりも（小中学校に比べて）薄く、学校の持つ課題が進路・学習に片寄っている本校では、地域連携の必要性をほとんど感じない。ただし PTA 活動などは比較的活発に行われているので、これらは継続したほうがよいと感じる。
- 県の施設の専門研究員などの協力を得るために、その施設の講座に参加するなど、相互の協力体制の構築に注意した活動をしている。
- 地域連携教員の仕事は教頭や主幹教諭が担ったほうがよい。
- 地域連携の意義は理解できるが、高校の実態により対応は難しい点があることを理解いただきたい。
- 地域連携教員の制度ができるまで、外部との関わりのある活動について問題のなかったものに関しては、地域連携教員が、あえて今までのやり方を変えて、活動を主導する必要はないと思う。新しく外部から、もしくは学校から地域との関わりを必要とするものがある時、地域連携教員がその手助けをするというのが大切なのだと考えている。
- 各高等学校の社会教育主事有資格者の活用を、検討すべき学校が多いのではないか。
- 那須町の地域の方々は学校に対して協力的で学校として地域関連行事が計画しやすい。また、教職員も積極的に地

域と関わろうとする意識が高いので、地域連携教員の負担が少ない。

- 自校にとって地域連携活動はどのような意味があるのか、そのために必要な活動はどんなことか、活動を通じて生徒にどのような力を身に付けさせ、そのために事前・事後指導を含めてどのような計画を立てるべきか、そうしたことを総合的に考え、自校の活動をより効果的なものとするための推進役となるのが、地域連携教員だと考えている。
- 地域の窓口は福祉については市社会福祉協議会、農業関係は JA、県農政事務所等、多くあり、学校自身が調整、企画しお世話になっている。
- 取り組みたい内容はたくさんあるが、さまざまな要因からまだ十分に組み立てていない。地域連携教員以外の先生方にも理解を深めてもらい、組織として動けるようになると思う。
- 本校は、既存の活動が多くあり、これまで関係していた団体の担当者は直接本校の実働担当者へ連絡を取っている。他の業務が多忙なことから、これらを全て一本化することが現状困難であり、地域連携教員の増員を促してもらいたいと感じます。さらに、社会教育主事有資格者を増やす必要性も感じます。よろしくお願いします。
- 地域コーディネーターに関する情報をもっと欲しい。(いるのかどうか自体が分からない)
- 学校が取組んでいることの多くが、実は地域と関わっているということ、改めて認識できました。
- 学校の教育活動が進学指導中心であるため、地域連携の必要性が理解されにくい。地域連携活動で、良い方向性に变化した生徒の姿を見ることで、職員の意識も変わらと思う。焦らずに活動したい。
- 自分自身が地域連携教員を良く分かっていません。今年度研修に参加しましたが、多くの先生方(特に県立学校)はそれにおっしゃっていたのが印象に残っています。まずは地域連携の意義を学校の枠を超えて研修したい(例として県立学校の職員が地域連携の盛んである小中学校に訪問し学習する)です。そのような機会を意図的に設けないことにはいつまでも「ボランティア係」で終わってしまいそうな気がします。
- 今までどおりの校務と地域連携教員及びコーディネーターとしての両立は、厳しいのが現状だと感じている。負担が軽減できれば、もっと地域との連携を図る活動を取り入れた教育活動ができるのではないかとと思う。
- 本校は研修を実施しなくても、地域とのつながりの重要性を理解している学校であり、工業管理部や各科で地域との連携が取れた業務を行っている。今後も学校内で連携を図り、さまざまな活動を行っていききたい。
- 様々な活動を「地域連携」の一環として捉えるようになりました。
- 商業科や家庭クラブ等の各団体それぞれに活動しており、調整が必要とされる場面もほとんどなかった。また、検定試験や行事等で忙しく、新しい活動をはじめたり研修を入れたいするには、余裕がないのが実態である。
- 地域の力を借りて教育活動を実践することで、互いの負担を減らしながら、生徒の体験活動と地域への貢献ができた。生徒達が地域社会と関わることを通して学び人間的に成長して、地域の人々に喜ばれ愛される人になるような活動を模索していきたい。地域への愛着や、栃木県へのUターンのきっかけになるのではないかと。
- 本校は既に地域連携事業が伝統的に行われており、教科、部、係、顧問等が中心に充分に行われ、さらに発展させるための工夫もされている。学校として、情報を共有し、理解し合うことが重要であり、地域連携教員の役目もここにありと考える。
- 研修で出張することが多くなり、授業ができず困ることが増えてきた。本校は実技科目でも週 1 単位で実施している科目もあり、授業に差し支えない形でお願いしたい。併せて、地区の研修会も含めて回数把握や検討もお願いしたい。
- 現在、担任や教科主任も担当している。特に、担任業務や教科との優先順位を考えると、やはり目の前の生徒を優先してしまい、地域連携教員としての業務が後回しになりがちである。高等学校の地域連携教員のあり方を考えると、各校それぞれ異なると思うが、改めてどのようなあり方を目指すべきなのか悩む。
- 地域との関係を持つことは生徒にとって有意義な活動である。すべての活動をおこなうことは、限界があるので情報を収集・整理していくことが大切である。
- 私が社教主事講習に行ったのは 4 半世紀前で、すっかり世の中が様変わりしていて社教主事として時代の流れに反応するのに苦労しています。有資格者ということで地域連携教員に指名されましたが、若い先生が地域連携教員として活動し、その上で社教主事講習にチャレンジしてもたったら、より効果的であると思います。
- 本校は比較的ボランティア活動に意欲的な生徒が多い。しかし、活動に参加する生徒は特定の者に偏りがちである。生徒の意識を高め、より多くの生徒が参加できる工夫が必要。また、連携の在り方について、校内でも研修を行うなど全校的な取り組みができるような仕組み作りが必要であると考えます。
- 「地域に開かれた学校作り」を目指して学校一丸となって取り組んでいるが、教員の中にまだ温度差がある。
- 本校のような「町に 1 つの高校」は地域の期待が大きき、年間のべ 50 以上の行事に取り組んでいます。コーディネーターである社会福祉協議会を通さないボランティア活動等は、相手方の要求が年々高くなりがちで、調整の難

しさを感じています。

- まだまだ地域連携の業務が大きな校務としての位置づけになっていないので、他の業務に時間が追われ、構想通りの地域連携に関する企画、支援、連絡に十分な時間を充てることができません。しかし、徐々に賛同する教員が増えてきて、学校教育が膨らみつつあります。
- 本校も含めて高等学校は各々の校務分掌、部活などで個別に連携を深めてきた実績があります。それらを有効に活用し、広く生徒及び地域の方々に周知していただき、更なる連携に取り組むことが大切だと思います。
- 教頭や主幹教諭が地域連携教員の場合と一般の教員が地域連携教員の場合で取り組む活動が大きく異なると思う。一般の教員が地域連携教員の場合には、教頭又は主幹教諭がコーディネーターとなり、協力しながら活動していけると、複数の業務にあたるようになると思う。
- 社会の変容とともに学校、教員に求められるものが多岐にわたるようになってきているが、問 7 に記した通り教育の目的を達するために様々な手段を選ぶはずであるにもかかわらず、「地域連携をすること」が目的になってしまう。本来の趣旨はそうではないのかもしれないが、多くの教員、管理職はそのように受け止めがちである。必要がないことまで強要されることのないよう、特段の配慮をお願いしたい。本来教員が尽力すべきことに時間と労力を割ける環境作りを切望する。
- 学校現場が取り組むべき教育活動は、法教育・主権者教育などなど、年を追うごとに増していく。「それらに加えて地域連携がのしかかってくる」という捉え方ではなく、それら新旧の教育活動の実施効果を高めるための地域資源導入の手法を編み出せるかが、この活動を拡充する鍵であると考えている。
- 外部からくる、あらゆる文書がなんでも「地域のだから」ということで回ってくるが、おかしいと思う。また、地域連携教員の位置づけが教員間においても、学校間においても異なっている印象を受けるが、まずはそのような根本的な問題を解決する必要があると思う。それと同時に、研修で学んだような地域連携教員としての仕事をきちんとやろうとすると、時間的に他にかけられる時間が割かれることになり、これで教科指導にかけられる時間が削られると思うと教員としての本末転倒であるように感じる。

■特別支援学校

- 地域との連携の必要性・重要性を理解・浸透していく難しさを感じる。地域連携推進計画等の説明を聞き、理解した教員は私からの提案を受け止めてくれたり、逆に提案をしてくれたりした。また、地域連携教員と実際の授業担当者との役割分担等も一緒に検討することができた。しかし、多くの教員はボランティア等の受け入れを考えてはいないのが現状である。ボランティア等を受け入れ地域との連携を深めていくためには、実践例を増やし教員の視野を広めていくことが第一だと考える。そのために今後、外部から講師を招いて講話をしてもらうなど、改めて教職員への啓発を行う必要もあると感じる。
- 毎日が勉強です。
- 連携のための連携のようなことにならないよう、今までの活動を中心に見直すことを心がけている。地域連携教員となってからの地域の見方と今までの見方は異なっており、また新たな勉強と考えて取り組んでいる。
- 地域の方と話をする機会が増え、顔なじみになれた。授業でいろいろお願いしたいと思うことが増えた。
- 特別支援学校はこれまでもセンター的機能等で地域への働きかけをしたり、現場実習で地域にお世話になったりしている。どこまでがセンター的機能も職業教育もすべて地域連携の一つであるとは思うのだが、地域連携教員としてどこまで関わるのか悩むことも多い。
- 地域連携教員の業務内容については、生涯学習課が発行しているガイドブックに例が記載されているが、実際は学校や地域の特性に応じて地域連携教員が考え、試行錯誤しながら進めているのが現状である。県立学校の場合、小・中学校とは異なり地域が広く、地域との密接な連携がうまく進められないのが現状である。県立学校の地域連携はどのように進めていくべきなのか、もう少し詳しい方向性を県教委から示してほしい。連絡協議会などの会議を年に2回は行い、情報交換する機会がほしい。
- コーディネーターは学校ごとに置くのではなく、地域ごとに置く方が幅広くボランティアの協力が得られるように思える。コーディネーターと地域連携教員の情報交換会が必要に思える。
- 地域の連携協議会等、学校代表として出席するのは管理職であることが多いが、その場に同席させて頂き、様々な立場の方と話を出来たことは大変有意義であったし、今後につながる話をすることも出来た。今後も積極的に地域の集まりに参加していくようにしたい。
- 0からのスタートではなく、ボランティア等既に行っていることがあり、係がいる中で、別の立場での役割をもったり新たに開拓したりする部分があり、難しさを感じている。